

三重県病院協会会報

Mie Hospital Association (MHA)

No. 291 2021(令和3)年1月

新春特集

年頭のご挨拶

鈴木英敬	三重県知事
加太竜一	三重県医療保健部長
二井 栄	三重県医師会長
伊佐地秀司	三重大学医学部附属病院長

三重県病院協会

理事長、副理事長、理事、監事

フォト・ギャラリー

伊勢はふるさと 空中散歩

四季折々

令和2年度三重県知事表彰お祝い

ペンリレー

各種報告

三重県病院協会

MHA



表紙の解説

題字

揮毫は鬼頭翔雲先生です。先生は日展会員で、今までに特選2回、入選35回、今年10月に開催される第7回日展で書道部門の審査員に中部地方でただ一人選ばれました。先生にとっては2度目の審査員ですが、日展の全部門を通じ審査員となられたのは、松阪市ゆかりの人では日本画の宇田荻邨（てきそん）と先生だけだそうです。他に読売書法会常任理事・審査員、中部日本書道会名誉副院長などの要職を務められています。

先生は、明るく気さくなお人柄で、誰からも好かれ、私にとっては30年来お酒と人生の師匠です。今回会報誌の題字をお願い致しましたところ、快くお引き受けいただきました。題字には、「力強さ」と同時に先生のお人柄である「おおらかさ」が表れ、私たちの会報誌を飾るのにふさわしい素晴らしい書であります。

デザイン

表紙の中央に淡い赤、青、黄の三重県地図3枚が、少し重なるようにして並べてあります。三重ですから単純に3枚並べてみたのですが、それが思わぬ効果を生み出しました。

病院は、医師、コ・メディカル（看護師、技術職員）、事務職員の三者が協力して運営していくことが最も大切であります。三色の地図は、三重県全体の医師、コ・メディカル、事務職員の集団を示し、県内のすべての病院では、これから三者が力を合わせて円滑に運営していくことを意味します。今まさにスタートの時ですが、あたかも陸上競技のスタートのように、三者が手をつないでスタートアップしているように見えます。また別の見方をしますと、ちょうど多度の上げ馬のように、馬が三頭、天に向かって飛翔しようとしているようでもあります。これからの飛躍をめざす私たちの協会を象徴するものであります。

またこのデザインを利用して、協会のロゴマークも作成しました。

表紙の背景は水色ですが、これは今までの会報誌の青色を少し薄くして引き継いだものです。

（竹田 寛 記）

三重県病院協会会報 NO. 291 目次

新春特集 年頭所感

ゲスト（敬称略）

ご挨拶	三重県知事 鈴木英敬	1
ご挨拶	三重県医療保健部長 加太竜一	2
新年のご挨拶	公益社団法人三重県医師会会長 二井 栄	3
新春のご挨拶	三重大学医学部附属病院長 伊佐地秀治	4

三重県病院協会理事会

新しい年を迎えて	理事長（桑名市総合医療センター理事長）竹田 寛	6
新年ご挨拶	副理事長（松阪厚生病院院長）齋藤純一	8
新年の抱負	副理事長（済生会松阪総合病院）諸岡芳人	10
年頭所感 創立「100周年」を迎えて	理事（富田浜病院理事長）河野稔彦	12
年頭のご挨拶	理事（三重県立総合医療センター理事長・院長）新保秀人	14
年頭所感	理事（鈴鹿中央総合病院院長）森 拓也	15
2021 年年頭にあって	理事（鈴鹿回生病院院長）加藤 公	16
新年ご挨拶	理事（遠山病院理事長）加藤俊夫	17
年頭所感	理事（三重大学医学部附属病院教授）富本秀和	18
新年のご挨拶—新型コロナウイルス感染流行下で三重県病院協会へ期待するもの—	理事（三重中央医療センター院長）田中滋己	19
新年のご挨拶	理事（伊賀市立上野総合市民病院長）田中光司	20
年頭所感 2021	理事（伊勢赤十字病院長）楠田 司	22
新春のごあいさつ	監事（吉田クリニック理事長）吉田 壽	24

フォト・ギャラリー

伊勢はふるさと 空中散歩	松阪市民病院名誉院長 小倉嘉文	27
四季折々	三重県病院協会理事長 竹田 寛	29

受賞おめでとうございます

令和2年度救急医療・福祉・看護関係功労者知事表彰	32
--------------------------	----

ペンリレー

地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指して	三重県立志摩病院 事務部長 青木正晴	33
-------------------------	--------------------	----

報 告

新型コロナウイルス感染症対策の経過（令和2年12月）	34
三重県病院協会ホームページの御案内	35
三重県病院協会だより	36
三重県精神科病院会だより	37
三重県病院協会事務局だより	38
令和3年1～6月会議等予定表	42
三重県からのお知らせ	43



ご挨拶

三重県知事 鈴木 英敬



新年おめでとうございます。

昨年、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、三重県においても感染の拡大が続きました。いまだ収束の見通しは立っていませんが、私たちは命と経済の両立を図り、「新たな日常」を創造していかなければなりません。この「新たな日常」はやがて訪れるものではなく、私たち自らが行動し、変革していく覚悟をもつ必要があります。

こうした強い決意のもと、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会変容をふまえて、「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」の目標達成に向けて施策をより一層加速させ、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりを進めていきます。

現在、医療提供体制を確保・維持することができているのは、最前線である医療機関でご尽力いただいている医療従事者の皆様の多大なご協力のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染症への対応はもとより、皆様や関係機関等と協力・連携しながら、県民の皆様の安全と安心を支える医療提供体制の確保・充実に向けて、オール三重で取り組んでまいります。

引き続き、本県の保健医療行政について、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとってすばらしい一年となりますことを祈念して、年頭のごあいさついたします。

令和3年1月



ご挨拶

三重県医療保健部長 加太 竜一



新年おめでとうございます。

平素から、本県の保健医療行政の推進にご尽力いただき厚くお礼申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症に対して最前線でご尽力いただいている全ての皆様に改めて敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会のあらゆる分野に甚大な影響を及ぼしていますが、一方で健康への関心が高まるとともに、重症化予防や健康づくりの重要性が再認識されることとなりました。こうしたことをふまえ、「誰もが健康的に暮らせる“とこわか三重”」の実現に向け、社会全体で健康づくりに取り組む気運の醸成や、「新しい生活様式」を取り入れたさまざまな取組を継続的・発展的に進めてまいります。

また、令和3年は、健康寿命の延伸を図ることを目的として「三重県循環器病対策推進計画（仮称）」の策定に取り組むこととしており、現在、中間見直しを行っている「第7次三重県医療計画」や、新たな計画期間がスタートする「みえ高齢者元気・かがやきプラン」もふまえ、地域の特性や実情に応じた地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでまいります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の次の波や新たな感染症のリスクに万全に備えるため、これまで構築してきた医療・検査体制を充実させるとともに、医療機関や社会福祉施設等における感染防止対策への支援に取り組みます。

そのためには皆様や関係機関のご協力が不可欠であるため、県としましては、しっかりと皆様の声を聴き、共に、県民の皆様の命を守り抜き、感染拡大の防止を図っていきたいと考えています。

引き続き、本県の保健医療行政の推進に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって幸多き年となりますことを心から祈念して、新年のごあいさついたします。

令和3年1月



新年のご挨拶

公益社団法人三重県医師会
会長 二 井 栄



新年あけましておめでとうございます。病院協会の先生方におかれましては健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症の第1波から第3波までの感染拡大の中、病院の先生方には入院加療に向けご尽力を賜り心より感謝申し上げます。県医師会としましては郡市医師会の先生方に夏頃よりPCRセンターを順次立ち上げていただき、その後インフルエンザ流行期に備え県との集合契約も多数の医療機関にお願いをして体制を整えてまいりました。しかしながら10月末からの感染者の急増においては、病床も逼迫し気の抜けない状況が続いております。医師会と県行政並びに病院協会および大学病院との協調を何よりも大切に、ワンチームとして県民の命と健康を守るために対処してまいりたいと思っています。

ワクチン・治療薬の開発が待たれるところですが、効能はもちろんのこと副作用についても不安要因が気になるところです。ただこれらによりこの感染症が収束し通常のインフルエンザと同じような扱いになれば、以前の日常が戻ってくるものと期待しております。

終わりになりますが、病院協会の皆様方にとって今年一年が最良の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新春のご挨拶

三重大学医学部附属病院長
伊佐地秀司



新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症で瞬く間に過ぎ去った令和2年を振り返ると、本年はどのような年になるかを予想し希望を持つことは、ある程度できそうです。そこで、この1年間を振り返り、新たな1年への思いを述べさせていただきます。

当院に於いては新型コロナに加えて臨床麻酔部の事件が発生しましたので、この二つを振り返ります。まず、新型コロナへの対応ですが、4月の緊急事態宣言を受け、本院では人工呼吸器管理が必要な重症患者さんを受け入れるために、救命救急・総合治療センター内のHCU病棟6床（ECMO用2床を含む）を用意しました。5月にはHCU病棟のバックベッドおよび感染拡大の緊急事態に対応するために精神科病棟全てをコロナ病棟としました。救急外来では、患者さんはすべてコロナ陽性者としてN95マスク着用による個人用防護具で対応するため、救急医にとって負担増となりました。そこで、全診療科から救命センターへの医師派遣の増員を行いました。幸い4～5月は新型コロナ患者の受け入れはなく、6月初めから精神科病棟を元に戻しました。冬季のインフルエンザとの同時流行に備えて、8月には発熱患者さんを院外で待機・診察ができるようにプレハブの診察室を2つ用意し、一つは院内PCRセンター（術前PCR検査などに対応）とし、もう一つは津地区医師会と共同の医師会PCRセンターとしました。さらに、三重県からの要請でコロナ用宿泊施設への医師・看護師の派遣も行っています。8月からはHCUに重症患者さんの受け入れが始まったために、救命センター内のICUベッドを削減し、各科には手術の制限と一般病棟での術後患者の管理をお願いしました。中央検査部の協力で新型コロナウイルス検査の充実も行い、PCR検査に加えて、抗原定量検査（ルミパルス）を導入し、9月から休日・時間外の緊急検査体制を整えました。さらに10月からは、HCUのバックベッドとして一般病棟の一角をコロナ病棟（4床）として稼働を開始しました。11月下旬からは新型コロナのさらなる感染拡大が起こり、12月には当院職員の感染が確認されましたが、日頃の感染対策により、濃厚接触者はほとんどなく、クラスターの発生を防ぐことができました。

次に臨床麻酔部の事件ですが、3月下旬に医療情報部からオノアクト（短時間作用型B1選択的遮断剤）について極めて憂慮すべき事件（カルテ改ざんと診療報酬不正請求）が発生しているとの報告書を受けました。事件の重大性から、3月30日に院内調査委員会を立ち上げ調査を開始しました。関係部署への最初のインタビューを1週間で終えた段階で、さらな

る調査を進めるには教授、准教授が勤務している状況では困難と判断し、学長とも相談し両氏に4月10日から自宅待機（自宅勤務有給）をお願いしました。6月25日に院内調査委員会報告書を学長に提出し、さらに第三者調査委員会が6月30日に設置され、9月8日に同委員会調査報告書が学長に提出されました。これを受けて、9月11日に本事件について記者会見を行いました。このような状況のため、教授と准教授の自宅待機は5ヶ月を過ぎることになりました。8月下旬から9月初旬にかけて、臨床麻酔部の専攻医に事件の詳細を告げ、大学病院としては日本麻酔科学会に対して麻酔科専門医プログラムの継続をお願いしているので、是非、三重大で研修を継続してほしいと伝えました。ところが、予期せぬ事が起こりました。日本麻酔科学会からメールで専攻医各自に、「日本専門医機構が三重大プログラムは4月からプログラム責任者である教授が自宅待機になり研修に支障が出ており、プログラムを停止するので、9月22日までに移動の希望の有無を返信するように」との連絡が入りました（専攻医の一人から情報提供）。さらに、専攻医の移動先については、麻酔科学会が機構や関係各所と調整をしてくれるとの内容も記載されていました。この三重大プログラムの停止と専攻医の移動については、病院幹部への事前の連絡は全くありませんでした。このメールの情報を取得した時点で、すでに専攻医6名の移動先が決まっており、9月30日付で退職となりました。この専門医機構と麻酔科学会がとった「病院幹部への事前の情報提供もなく、専門医プログラムの停止と専攻医の異動先を斡旋した」という行為は、専攻医6名の移動による病院診療体制への重大な障害が発生することへの配慮が欠如しており、全く承知できません。プログラム停止はまだしも、期限を決めた専攻医の緊急移動の必要性和それによる医療への影響の重大性を考慮すれば、専門医機構のとるべき行動は自ずとわかることです。その後、10月末と11月末に教授（自己都合退職）、准教授（懲戒免職）、講師、助教の5名が退職となりました。なお、准教授は12月3日に公電磁的記録不正作出・同供用の疑いで津地検に逮捕されました。12月現在、麻酔医は4名（うち専門医2名）ですが、院内各科から麻酔科ローテート医師9名を派遣してもらい、さらに県外から麻酔科専門医の外勤2名を確保した状態で、手術件数は通常の8割程度を維持しています。

今回の臨床麻酔部の麻酔科医の大量退職に際しては、三重県病院協会の竹田理事長から80の協会会員病院に対して、本院への支援を要請して頂きましたので、この場をお借りしお礼を申し上げます。また、三重県病院協会様には、新型コロナウイルス感染の院内発症時には、当該施設には様々な障害・弊害が起こりますので、会員病院同志の協力体制を構築して頂きたいです。

新しい年は、新型コロナへの対策がほぼ整った状況ではあるものの、更なる感染拡大への対応策も考えつつ、大学病院としての通常診療への支障を最小限にしながら、より慎重な病院運営を行う必要があります。三重県病院協会の皆様には本年もよろしくご指導の程お願い申し上げます。



新しい年を迎えて

三重県病院協会理事長
桑名市総合医療センター理事長
竹田 寛



明けましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりまして有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

去年は、まさにコロナに明けコロナに暮れた1年でした。私ども医療人にとってはもとより、国民の誰もがこんな1年を経験したことは、未だかつてなかったでしょう。そんなたいへんな年でした。その新型コロナウイルス感染症、昨年末になってどんどん拡大し、年が明けるや否や、感染者、重症者、死亡者の数は、全国至る所で過去最高を更新し、とうとう東京都と首都圏の3県には2度目の非常事態宣言が出されました。三重県でも患者数が急増し、医療の受け入れ体制も切迫しつつあります。三重県病院協会としましても、このコロナ感染の急速な拡大を抑えるために有効な対策を講じなければなりません。その方針を中心に、この1年の抱負を述べさせていただきます。

1) 新型コロナウイルス感染症対策：三者協議会の開催とワクチン接種

三重県でも、正月三か日を過ぎた頃から感染者数は急増して連日過去最多を更新し、9日にはとうとう49人にもなりました。それにつれて入院患者数も増え、病床利用率は県全体では50%を超える程度ですが、北勢地区ではほぼ満床に近い状態となり、入院待ちの患者さんが桑名地区だけでも20人を超えるまでになっています。このまま感染者が増え続けると、重症化しやすい高齢者や持病を有する患者が入院できないという最悪の事態を招き兼ねません。したがって無症状あるいは症状の軽い若い患者は、宿泊施設や自宅での療養とし、重症化しやすい人を優先して入院させる、そのトリアージを迅速に行う必要があります。しかし今まで、三重県、各地域の保健所、病院、診療所などの連携が今一つで、患者の振り分けや受け入れは、必ずしも円滑に行われているとは言えませんでした。

三重県には、鈴木知事も参加する「三重県新型コロナウイルス感染症対策協議会」が2か月に1度ほどの頻度で開かれています。病院協会からは新保理事が委員として、私も参与として出席しています。しかしこの会議は、医療界だけでなく他の様々な分野の方々も加わる大きな協議会ですので、細かな打合せや対策を話し合うことはできません。そこで昨年末より、三重県医師会長の二井先生、加太部長をはじめとする県医療保健部のスタッフ、それに病院協会代表として私が加わり、三者協議会を始めました。次から次へと発生する諸問題に対し、お互い膝を突き合わせて話し合い、緊密な協力関係を確認し、きめ細かな対応策を迅速に打ち出して行こうとするものです。1月7日（木）にも2回目の協議会が開催され、PCR陽性患者を病院へ入院させるか、宿泊施設あるいは自宅での療養とするかについての判断基準に関し話し合われました。時々刻々目まぐるしく変化するコロナ感染症の状況を的確に把握し、最大限有効な対応策を講じるためには、県内の行政、病院、診療所、介護施設などが

一体となって対応せねばなりません。そのためにも三者協議会の意義は大きく、できるだけ頻繁に開催していく方針です。

一方、私個人的には、新型コロナウイルス感染症を収束させるためには、ワクチンしかないと考えています。県でもワクチン接種に向けた準備が始まり、各地区において順次説明会が行われています。順調に行きますと2月末か3月初めには医療従事者を対象にワクチン接種が始まるとのことです。その後、高齢者や基礎疾患を有する一般の人々への接種が行われ、さらに若い人たちへと拡大されていきますが、県民すべての接種が終終わるのはいつ頃になるのでしょうか。一日も早く終わって、元の落ち着いた生活に戻ることを願うばかりです。

2) 理事会の在り方委員会

病院協会理事会の改革は、私の理事長就任時の公約の一つでした。今年はそれに向けて動き出します。具体的には、「三重県病院協会理事会の在り方委員会」を作り、理事会の将来あるべき姿について徹底的に議論し検討していただきます。そこで得られた意見を理事会へ諮り、さらに理事・監事全員で議論を重ねて、新しい理事会の構成や機能などを建設的に決定していきたいと考えています。在り方委員会のメンバーには、できるだけ若い理事の先生方になっていただこうと思っています。病院協会の将来を担うのは、若い理事の先生方からです。若い先生方による活発な議論と提言を期待しています。

3) ホームページの活用

会報誌と同じく、当協会のホームページも昨秋リニューアルされました。先生方や事務職員の皆様のご尽力のお陰で、内容はずいぶん充実したものになって参りました。ホームページにはいろいろなサイトがあり、それぞれの内容につきまして本誌 35 ページに概略を掲載しましたが、その中で特に活動の活発なサイトを2つ紹介致します。

a) 伊勢はふるさと 空中散歩

松阪市民病院名誉院長の小倉嘉文先生が、県内各地の景勝地をドローンにより撮影した空中動画をご覧いただけるコーナーです。小倉先生は頻繁にあちらこちらへ出掛けては、撮影した動画を事務局へ送っていただき、その数は4か月足らずで20本近くにもなりました。それらの動画の中から抽出した美しい静止画像を4枚、本誌に掲載しています。是非動画をご覧ください。普段私たちが見慣れている景勝地も、上空から見ますと、また違った面白さが感じられます。

b) 最新医療情報 (MHA アンテナ発信情報)

遠山病院事務長で、当協会事務部代表でもある別所義樹氏のご尽力により、国や厚労省、三重県、日本医師会や日本病院会などの諸機関より公表されました決議事項や提言などが、ほぼリアルタイムに掲載されています。重要な会議の報告や提言はほとんど網羅されていますので、「昨日開かれた厚労省の新型コロナウイルス対策協議会では、どのような結論になったのかなあ?」、などと調べたい時に役立ちます。是非ご活用ください。

他にも事務職員さんたちの講習会などの案内も頻繁に行われていますし、私の四季折々も貧弱ながら細々と続けています。ポストコロナはITの時代、ネット会議は当たり前になるでしょうし、ホームページを如何に魅力あるものとして活用するかは、当協会の将来にとって大切なものになると思われます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新年ご挨拶

三重県病院協会副理事長
松阪厚生病院院長
齋藤 純一



新型コロナ（以下コロナ）、コロナ、コロナ、コロナの1年でした。

今年も残すところ1ヵ月を切りました。この時期、三重県病院協会誌の1月号の「ごあいさつ」を書いています。早いもので書き出してかれこれ20年になります。毎年この頃になると何を書こうか何か書くことがあるのかと考え悩んで気分はブルーとなっていました。でも何とか新年に期待するものもあって書いてきた様に思っています。先が全く見えません。コロナも思い起こせば新年早々武漢に始まり2月のダイヤモンドプリンセス、隅田川屋形船、PCR検査、実行再生産数、エイティーンクル、理論疫学、第1波、クラスター、緊急事態宣言、三密、医療崩壊危惧、東京アラート、大阪モデル、夜の街、第2波、GoToトラベル、五つの場面、五つの小、第3波、高齢者感染増、クラスター多様化（病院・施設特に高齢者施設等）、重症者増、医療現場逼迫、医療スタッフ疲弊離職、崩壊寸前、治療薬探し、大国、メーカー間の利害得失、政治的経済的威信をかけた開発競争、ワクチン緊急使用許可申請、米ファイザー・独ビオンテック、米モデルナ、英アストラゼネカ・オックスフォード大、日本安ジェス・大阪大、「神のみぞ知る」発言、自衛隊出動（DMAT）、医療体制強化等の第3次補正予算案（6兆円）を経て現在に至っています。この間、世界中より諸説が発表、発信されその都度一喜一憂し振り回されてきました。香港の国家安全維持法制定、安倍総辞任、菅総誕生、トランプ氏次期大統領選敗北、激変・激動を経験し正にカオスの時代と云っても過言ではないと思っています。

私共の病院でも第一波当初より面会禁止、正面玄関前にテントを設置して（本誌に小さく掲載された）、体温測定、体調・行動接触歴聴取などを行い一時期、有熱初診患者受入中止、外来診療大幅制限（リモート診療対応）、デイケア・デイナイトケア中止、健診中止等々実施していました。テントは約2ヶ月で撤去しました。現在も発熱患者の初診は受けていません。管理体制として2月より感染対策委員会と危機管理室会議を合同して毎週開催し、更にタスクフォースを編成して患者様、御家族、出入り業者、病院スタッフなどへの種々の制限、許認可等を決定しています。病院職員の家族を含め県外への移動、接触などを全て届出制にして必要なら自宅待機、その後抗原定量検査（任意）後の復帰を徹底しています。しかしどれだけ水際対策を行っても無症候性感染が3割程度に存在するという賢いウイルスが持ち込まれ入り込んでくる可能性は否定できません。その為の換気、手指消毒、マスク着用、ディスタンス確保など出来る限りのことはして更に発生時対応とクラスターにさせな

いようにする為のマニュアルを作成し説明会、想定訓練を繰り返し実施しています。

本県に於いては北勢、中勢伊賀医療圏が他医療圏より比較的多数の感染者が出てきています。県全体では全国的にもやや上位の発病率となっています。特に11月に入って三重大学生、三重大医学部附属病院内、更に県庁本庁舎内部署（16例目クラスター）に於いても感染者が確認されたりで6クラスターの発生があります。コロナ用ベッドの病床占有率も50%を越えて危険水域に入り急遽県知事による記者会見が持たれ全県民に注意・自粛等が勧告されている現状です。

扨て令和3年ですが、コロナ次第と云えると思います。羅針盤と云える物は存在しません。頼みは前述のワクチンです。各メーカー有効性は約95%と発表していますが現時点では皆目判断出来ません。安全性に関しても不明と言わざるを得ないと考えています。矢張りレムデシビル、デキサメタゾンでなく特効薬が開発上市されないと安心出来ません。ウイズコロナ、アフターコロナの日常になるには未だ当分不安と自粛の日々を送らねばならないと覚悟しています。

ただ幸いなことに英国に於いて米ファイザー社・独ビオンテック社開発のワクチンが12/2使用承認され12/8から緊急使用開始されます。米国に於いても12/10承認方向です。我が国に於いても12/2に改正予防接種法が成立していて既に契約したファイザー、ビオンテック社と米モデルナ社より1億7000万回分が供給され特別承認の形で順次接種となる様です。一筋の光明が見えてきました。本協会は県民の命と健康を守る為に県、県警、県消防、市町、県医師会等と連携協力し乍ら活動していきます。本会独自の企画も加えていければと思います。例えば学術研修会、各地域での医療福祉相談会、市民公開講座、病院見学会などです。県、市町との定例意見交換会を開催し広く考えとか要望も交換し合うのも良いと考えます。これらの実現の為には財政的支援も要望しても良いのではないのでしょうか。

県内医療機関もコロナ病床の有無、官民、規模、所在地などで程度の差はありますがいずれも厳しい状況にあります。同一病院内でも専門性、配属部署等により精神的、身体的に追いつめられて休職、退職となったりするケースが徐々に増えている様です。疲労や体力限界だけでなく潜在的な水面下の分断の結果と云えるのではないのでしょうか。

このような状況下、本協会が目的意識や情報を共有し互いに助け合い前に進む事が肝要と考えます。必ず展望は開けます。

今こそ、会員各位の御理解、御協力が求められています。宜敷くお願いいたします。



新年の抱負

三重県病院協会副理事長
三重県済生会支部長
済生会松阪総合病院
諸岡芳人



新年あけましておめでとうございます。今年は丑年、私の干支でもあります。歩みはゆっくりでも、一步ずつ確実に前進出来る年になることを祈ります。

新春号であり、本来、元気が出るような今年の抱負や夢を書かないといけないのですが、せめて、皆さまが幸せな初夢を見られるようにお祈りしています。私が、もし良い夢が見れたとしたら、今年一年は、こんなところでしょうか。「Go To トラベルの停止によって、コロナ患者が大幅に減少？現在、巷で言われている様に、2月下旬から3月にかけて、まず医療従事者がコロナワクチンの接種を受け、引き続き高齢者、持病のある人が接種を受ける事が出来る。これによって、日本の医療界も少し元気になり、更に、感染者数も徐々に減少、少人数の飲み会が復活。感染対策用消耗品から消費税が外された。介護報酬の改定で、大幅アップが実現。4月以降も、病院への空床補助金の交付などの支援が、引き続き継続される。東京オリ・パラは無事に開催され、世界中に元気を与えて終わる。秋ごろには全国民へのワクチン接種が終わり、年末には忘年会が盛大に開かれる。」

改めて、新年の願いとしては、新型コロナ感染症対策が、ワクチンを始めとして、一步でも、二歩でも進むことしかありません。この際、神様、仏様だけでなく、すがれる方にはどなたにでもおすがりしたいと思います。ワクチン接種が始まって、医療従事者の、コロナ患者対応へのストレスが少しでも軽減されることを願っています。治療薬の開発についても、多くのメーカーがしのぎを削っているかと思いますが、それまでは降りかかる火の粉は自分で払わないといけませんので、しっかりと手洗い、うがい、マスク着用を実行し、密を避ける行動をとるようにしましょう。

三重県病院協会としても、各会員病院のコロナによる経営的悪化等の窮状についてのアンケート調査を行い、その集計を元に、竹田理事長が、県に対し、病院の窮状を訴え、病院支援を強く要請されました。空床補助金や感染対策用備品購入への補助金交付などの病院支援が、他の都道府県よりも迅速に行われたと思いますが、病院協会からの働きかけも、かなりお役に立てたのではないかと感じています。

所で、私の心配事を一つ、最近のテレビのワイドショーでは、ワクチンの副作用の話が多すぎはしませんか？私はワクチンは打ちませんという医師まで登場させたりして、あたかもワクチンは怖いから打たないようにしましょうキャンペーンをはっているのかと思ってし

もう番組もあります。日本は例の薬害エイズ、B型肝炎などのつらい過去があり、MMR ワクチン（新三種混合ワクチン）や子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）の副作用などがマスコミ上を賑わせた等の歴史があり、恐らく他の国以上にナーバスになっているとは思いますが、少し感情的なセイフティーネットが働きすぎているのではないかと感じます。アメリカのあるメディアが、「日本はワクチンへの警戒が根強く、普及に遅れをきたす可能性があり、コロナとの闘いの障壁となるのでは。」また、NHK の世論調査において、36%が新型コロナウイルスのワクチンを「接種したくない」と回答したことを引用し、「日本は世界で最もワクチンへの信頼度が低い国の1つ。」という警鐘を鳴らしています。

さて、令和も早3年になりました。「明治は遠くなりにはけり」と言う句の一節を、ご存じと思いますが、これは「降る雪や 明治は 遠くなりにはけり」と言う中村草田男の句があり、昭和6年（1931年）草田男が、大雪の日に、母校を訪問した際、降りしきる雪の中に居ると、時と場所の感覚が薄れ、現在がそのまま明治時代であるかのような錯覚と、明治時代が過去のものになってしまった寂しさを詠んだ句です。私にとって、昭和の時代は、技術力ではどこにも負けない日本と思っていましたが、IT 環境などでも世界の周回遅れといわれるようになってしまいました。「昭和は遠くなりにはけり」です。平成の時代は戦争がなかった平和の時代であったといわれています。令和の時代も同様に平和な時代になって欲しいと思っていましたが、対コロナ戦争が起こってしまいました。せめて、人が人を殺す戦争は絶対に起こらない時代であって欲しいと願っています。しかし、備えは必要十分にして、自分の国は自分で守るべきです。大国に対しても一歩も引かなかった明治人のような気概を持った日本人を忘れている日本人に警鐘を鳴らしたいと思います。

さて、去年は、長年、親しまれてきた協会誌とホームページの大幅なりニューアルが、竹田理事長と先生のブレインとも言うべき皆さんの協力によって行われました。かなり洗練され、なかなかのものになったと思いますが、皆様の感想はいかがでしょうか。他県のホームページとも是非比べていただきたいと思います。負けていないと思います。更に、良いものになるように、皆様からご意見を寄せていただきたいと思います。



年頭所感「創立 100 周年」を迎えて

三重県病院協会理事
医療法人 富田浜病院理事長
河野 稔彦



明けましておめでとうございます。

大正 7 年に石田誠先生が設立された富田浜病院も、昨年創立 100 周年を迎えることが出来ました。これも一重に地元の皆様、関係者の皆様、職員の皆様のお蔭と感謝しております。またこの 100 年というお目出度い年に改元されまして、令和元年となるのも新しい世紀への門出として気の引き締まる思いです。

100 年間『一世紀』の重みを考えますと、先人達の歩んだ茨の道を想像に難くないですが、企業が存続するためには、いろいろな要素が重なって成し遂げられていくのだと思います。結核病院から救急病院を経て、現在のケア・ミックス型病院に至るまで、さまざまな紆余曲折があり、日本の医療体制の変化に応じて経営してきました。今後の日本は少子高齢社会を迎え、未曾有の人口減少社会へ突入していきます。私達日本人は世界に類を見ないこの変化に対応していかなければなりません。

私が富田浜病院を継承して 37 年になりますが、その当時は 1 億 2 千万円の借金と、毎月 700 万円の赤字を抱え、医療法人の土地を切り売りして建売住宅を建て、それを売って糊口をしのいでいました。その時三重県病院協会会長の遠山豪先生から、財団法人河野臨床医学研究所の河野稔に経営再建の依頼があり、私が院長として派遣されました。

昭和 58 年 5 月に新生富田浜病院は救急病院として発足しました。60 年以上続いた結核病院の立て直しには、ただ継続するだけでは不可能です。私が勤務していた北品川病院は年間約 4000 台の救急車を受けていましたので、その経験をいかして 24 時間救急医療を開始しました。その後木造の建物を次々と建て替え、病院中央館、健康増進センター、老人保健施設、リハビリセンター、社会福祉法人、特養「浜風」など超高齢化社会に対応してきました。新生富田浜病院の経営立て直しの成功は、この約 5000 坪の広大な敷地が残っていたことです。36 年の間に 11 回の拡張工事をする事が出来たのは、土地を自由に使えた事です。何処の病院も増改築の時の、一番の問題点は隣地の買収です。これを苦勞せず自由に拡張できたことは、先人に感謝しなければなりません。

100 年のうち 37 年間の経営者としての責務は、十分果たしたのではないかと自負しております。「企業の盛衰は 30 年毎にやってくる。」とされていますが、そろそろその節目を迎えつつあると考えています。私も 76 歳。後期高齢者の仲間入りをしました。企業の生

き残りの重要な問題は「後継者交代」です。100年続いた富田浜病院を継続するための重要なターニングポイントであります。今後の最大の問題はいつ引退するかです。

世紀を超えて医療に尽くし、地域の為に貢献してきた現在を顧みると、「目に見えない人生の絆により繋がれた人間関係」が、ここまで来た集大成と思うと感無量です。

この巻頭言で一応100周年の締め言葉というところで「新型コロナ COV I T-19」が流行りだしました。100周年の記念式典はギリギリで開催できました。この感染症は人類の今後の生活にどれだけの影響を与えるか想像もつきません。でも富田浜病院は国民病とも言われた結核に対して作られた病院です。今度の「新型コロナ」にも負けずに発展していくと願っています。

地元の皆様、関係者の皆様、職員の皆様のご協力のお蔭でここまで来れました。心から感謝に堪えません。これからも次の百年を目指して皆で頑張っていきたいと思います。



富田浜病院全景



年頭のご挨拶

三重県病院協会理事
三重県立総合医療センター 理事長・院長
新保 秀人



新年明けましておめでとうございます。

2021 年が世界中の人々にとりまして良き一年になりますことを心よりお祈り申し上げます。この言葉は例年以上に重く感じております。

2020 年は本来であればオリンピックでの選手たちの活躍に国内が盛り上がりいい意味で記憶に残る年になったはずでしたが真逆の一年になってしまいました。

しかしながら前を向いて進まなければいけませんので当院の状況を振り返りながら本年の抱負などを述べてみたいと思います。

話題としてはダヴィンチから始めたいと思います。泌尿器科のメンバーが増強されたことによりダヴィンチ手術が可能となり、かなりの勢いで件数を伸ばしてくれています。これにより消化器外科、呼吸器外科、産婦人科、泌尿器科の4科でダヴィンチ手術が行われることになりました。今後も安全には配慮しながら県民の皆様の期待に沿えるよう進めていければと考えております。ついで施設改修についてです。長らく懸案でありました病棟における看護師職員の休憩室も今年度中に工事が完了する運びとなりました。これを含めまして細かいものも入れますと20件の施設改修を行ったもしくは今年度中に行うことになっております。中には目に触れにくいものもありますが一見してわかるものもあります。利便性重視、機能性重視で改修しましたので患者さんや職員の皆さんのお役に立てればと幸いと感じております。職員採用では本年度は幸いにも薬剤師を3名採用することができました。次年度も4名を採用予定です。これによりかねてより手薄との指摘がありました薬剤業務の充実が図れるものと期待しております。実際2020年後半は薬剤に関する業務内容の改善が数値としても実感できるまでになり嬉しく感じているところです。

今年の抱負です。C Tや血管造影装置などの大型医療機器の更新も昨年で一段落しました。これらの新しい医療機器を核として医療をさらに先に進める体制づくりを心がけて参ります。またこれまでより一層安全、安心を強く意識した医療を目指したいと考えております。

「働き方改革」への対応にも注力しなくてはなりません。現時点では残念ながら当院の取り組みはまだ緒についたばかりとの印象を持たざるを得ません。勤務時間や勤務内容の把握方法についてもまだ改善、工夫が必要と感じています。外部の方の知恵や工夫を拝借しながら進めていきたいと考えております。

最後になりますが本年もしばらくは新型コロナウイルス感染症との戦いは続くと予想されておりますので三重県病院協会の役割はいつにも増して大きいと思います。竹田理事長のリーダーシップのもと全県で医療を守っていく必要があります。私どもも微力ながら貢献できればと考えております。皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



年頭所感

三重県病院協会理事
鈴鹿中央総合病院院長
森 拓也



本来であれば、オリンピックで盛り上がり、感動を多くの人と共有していたはずの 2020 年は新型コロナウイルス感染症によって生活が一変しました。正確な情報・エビデンスのないウイルスに対峙していくことへの不安、自粛の継続などストレスが蓄積していく状況であったと思います。多くの病院スタッフやその他関係者の方々のご協力の下、コロナ対応を行いつつなんとか通常医療を継続できています。心から感謝を申し上げます。

新しい生活様式はいかがでしょうか。WEB にも違和感はなくなりましたか。マスクになれば、笑顔が表現できるようになりましたか。コロナ禍の不安を解消できていますか。コロナで変わってしまった人はいませんか。なにかすっきりしないような気がします。

コロナのため多くの行事が取りやめとなりました。いつもであればできなかったことに向き合う時間が持てた方もみえると思います。個人的なことですが釈迦ヶ岳（紅葉）、国見岳（キノコ岩・石門）等の鈴鹿の山を歩き、伊賀の霊山、馬越峠（熊野古道 伊勢路）と天狗倉山（尾鷲湾が一望）、能褒野王塚古墳（ヤマトタケルの陵墓とされる）等を天候と体力を考慮しながら楽しむことができました。大きな自然と悠久の歴史と向かい合うことにより、心と身体がリセットされます。三重県病院協会のホームページも一新され、ドローン撮影では素晴らしい三重の風景を知ることができました。

うれしいニュースとしては、「はやぶさ 2」が無事にサンプルを地球に持ち帰ったことです。2 回目の着陸を試みたが、適切な着陸部位が見つからず、墜落を避けるために急上昇、ミッションは困難と思われた。しかしカメラは、緊急上昇が起きた時も連写する設定がされており、適切な着陸部位を発見。トラブルの時もデータを取り、少しの機会も無駄にしない。転んでもただでは起きない仕掛けがありました。

困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びていく力「レジリエンス」が注目されています。アニメにおいて、折れない心、レジリエンス、人のために全ての力を使おうとする心を持ち続ける登場人物が多くの人々の心をつかんでいます。我々も負けずにこの現在の状況に立ち向かわねばなりません。

2021 年の日常が元の元気な状態に戻ること、戻すことに力を合わせていきたいと思います。



2021 年年頭にあって

三重県病院協会理事
鈴鹿回生病院院長
加藤 公



新年あけましておめでとうございます。

昨年 2020 年は新型コロナウイルス感染拡大で世界中が翻弄されました。まさに歴史的事件が起こったといっても過言ではありません。感染拡大によって、私たちの生活様式は一変してしまいました。常に、基本的な感染予防対策としてマスク着用、手指消毒を行い、そしていわゆる三密を避ける生活が求められています。

一方、医療機関には新型コロナ感染への直接的な対応は言うまでもなく、救急医療をはじめとする従来からの一般的な医療の維持が求められています。これは県民の皆さんの健康を守るためには当然のことですが、それぞれの病院は多くの問題を抱えながら何とか運営されているという実情もあって簡単なことではありません。特にコロナ禍での受診控えなどによる医業収入の減少はほとんど全ての病院にとって経営困難に陥りかねない緊急で重大な問題でした。経営困難→病院閉鎖→医療崩壊という最悪のシナリオは絶対に避けねばなりません。今のところ、公的な補助金などを受けているおかげもあって、県内では病院閉鎖など危機的な状況にはなっていません。しかし、これらの補助金がいつまで続くなどの保証もなく、病院経営は先が見えない状況です。三重県病院協会としては、こういった経営面も含め、各病院の直面している問題を抽出し、検討支援していく必要があると思います。

コロナ禍では、いろいろな分野でそうであったように、医療界でも人が集まる様々なイベントは避けることが余儀なくされ、多くの学会や会議が中止になりました。その後、必要に迫られて新たな手段（IT やテレワークなど）によるオンラインでの運営が行われるようになり、滞っていた問題の解決にはなっているようです。しかし、それだけでは、これまでにあった人々のつながりが薄れてしまうのではないかという意見も多くみられるようになってきています。今後は、感染拡大の防止のための新たな手段を利用しながら、コロナ前のつながりの大切さを再認識し、感染状況を考慮して、オンライン、オンサイトをうまく融合させていく方法が求められるものと思います。

新型コロナウイルス感染症との戦いは、ウィズコロナ、アフターコロナとなって今年も続いていくことが予想されます。三重県病院協会も、いろいろな方法を模索して、病院間はもちろん、医師会や行政、県民の皆さんとのつながりを大切にして、様々な問題に取り組んでいくことが必要だと考えます。

最後になりましたが、会員並びに関係者の方々のご支援を心よりお願い申し上げます。



新年ご挨拶

三重県病院協会理事

遠山病院理事長

加藤 俊夫



新しい年を迎え皆様のご健勝をお祈りいたします。

新型コロナウイルスの暗雲が立ちこめる中で年が明け、おめでとうという言葉を使うのものはかられるいつもと違う新年になりました。三重県病院協会の皆様にはそれぞれのお立場で厳しい対応を迫られていることと拝察いたします。

さて三重県病院協会では平成 30 年 5 月から竹田寛理事長が新しく就任され、その意欲的なリーダーシップの下で様々な改革が図られています。私は、これまで約 20 年の間病院協会の理事を務めさせていただき、どれほどお役に立てたのかと自問すれば、あまり胸を張れないようにも思う次第ですが、今後は、竹田理事長の改革にできる限り協力し、少しでも病院協会の発展にお役に立てればと思っています。

三重県病院協会の今後の課題の一つに、理事、役員の選出の件があるかと思います。手元にある平成 19 年の名簿を見てみると、会員総数が 94 病院で、理事が 25、監事 2、評議員 14 となっており、41 病院が何らかの役員に名を連ねていました。その後、理事数の削減が図られ、平成 24 年に三重県病院協会は、社団法人から一般社団法人に移行となり、これを機に理事数 17、監事 2、評議員は役員推薦委員と名をかえて 14 となりました。役員推薦委員は理事を兼ねることができないとの定款条項がありましたが、令和 2 年の役員改選では、すべての会員が理事候補になりうるとの竹田理事長の方針により、役員推薦委員が廃止となり、その結果、現在の役員数は、理事 17、監事 2 の 19 となっています。役員推薦委員も病院協会の役員とすると、現在の役員は 33 から 19 に減ったこととなります。今回の改選は竹田改革の第 1 歩で、今後検討を重ねてよりよいものにしていく方針を理事長も表明されています。

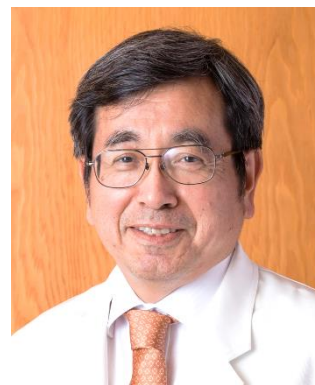
三重県病院協会の会員数は、多い時は 110 を超えていたのが、現在は 82 病院となっており、このうち 50 病院は民間病院に相当します。地域の基幹病院や多くの患者さんの診療にあたる総合病院が、病院協会の中核をなすのは当然ですが、82 病院のうち 50 を占める民間病院の声も届きやすい組織になるよう願うものです。2 年後の改選に向けては、理事定数の若干の増加の方向での見直しや、地域別の理事割りつけ数の調整、公立、民間病院の理事比率、地域基幹病院の指定枠をどうするか、あるいは今回各ブロックに任された理事選出の方法を、病院協会として統一するなど、もう少し検討の余地がありそうですのでよい話し合いができればと思います。

地域医療構想を始め、少子高齢化に向けての病院のありかたを考える中で、思いがけない新型コロナウイルスの蔓延という大きな試練に見舞われています。それぞれの病院がその役割を果たし協力しながら、この苦難を乗り越えていきたいものです。2021 年が、新型コロナの暗雲が晴れて明るくよい年になることを切に祈ります。



年頭所感

三重県病院協会理事
三重大学医学部附属病院教授
富本 秀和



新年明けましておめでとうございます。病院協会会報は昨年来、竹田理事長のご尽力ですっかり新しいスタイルに生まれ変わり、手にとって読みたくなる記事が増えたと感じています。とくに、小倉嘉文先生がドローンで撮影された空中散歩の写真は出色の出来栄で、理事長の草花の写真も新連載企画としてふさわしいと思います。カラー写真のページでは三重県の山里の美しさを改めて実感させていただくところです。

さて、昨年を振り返ってみて、大学病院選出の理事として一言ご挨拶を申し上げます。旧年中は大学病院にとって、3月の麻酔科事案、8月のコロナクラスターの発生といろいろ大変なことが続いた1年でした。三重県病院協会の関係各位にも処々ご心配をおかけするところになり、大変申し訳なく存じています。今年は心機一転、良い年にしたいと念じています。

漢字能力検定協会が昨年末に発表したところでは、今年の漢字が「密」というくらいですので、コロナ感染症のことは話題にされる先生方が多いことと思います。そこで、へそ曲がりの小生としては、あえて東南海大地震への備えについて抱負を述べさせていただきます。大学病院のBCPは10年以上昔に策定されたものが、そのまま残っていた状況でしたが、昨年は伊佐治病院長のご発案で三重大病院BCPのリニューアルが進行中です。小生が安全管理部長をしていたのは7年ほど前ですが、全国大学病院の安全管理部長会議で津波が懸念される立地にある病院が3つほど挙げられたところ、本学大学病院が含まれていたのが慌てた経験があります。実際のところ、大学病院は砂浜にまさに隣接して建てられており、津波に対しての十分な備えが必要な状況があります。昨年は岸和田病院長特命補佐を中心に、防災ワーキング・グループならびに災害対策推進室が病院内に設置されており、災害時病院BCPの策定を大学病院を挙げて全力で取り組んでいければと願っています。

末筆になりましたが、できれば協会報を活用してコロナ対応についての情報や対応策を共有する場を提供して頂けると有難いです。コロナ感染対策にはよくわからない点も多く、コロナ感染対策に関するtipsを病院間で共有できればと思います。一例をあげますと、建屋入構時の検温の問題があります。寒冷時にはサーマルカメラを使用しても正確な検温が難しいという課題があり、入構後にどの程度の時間室内で過ごした後であれば正確な検温が可能になるのか、あるいは非接触式体温計で体温測定をする場合に誤差を極力小さくする方法などは、文献等をあたって記載されたものを見出すことができません。これは一例にすぎませんが、どこでも必要で、かつ案外よくわからない問題についてtipsを共有する場をご提供いただけると有難いところです。ささやかな期待ですがご検討いただければありがたく存じます。



新年のご挨拶

—新型コロナウイルス感染流行下で
三重県病院協会へ期待するもの—

三重県病院協会理事
三重中央医療センター院長
田中 滋己



あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で日常生活の行動様式は大きく変わりました。世界中で移動を制限して接触感染を減らし感染防止を優先させるのか、移動や接触を維持しながら経済を優先させるのか、決断を迫られました。感染の標準予防策に国家間の差はありませんが、その運用には大きな差があり、人種やお国柄の生活様式なども加わって各国の感染状況はかなり異なっています。日本は当初、国際的には感染対策の成功例として評価されていましたが、いつの間にか感染者数で中国を抜き、アジアでは感染者の多い国となっています。強制的な移動制限ができない日本では、ウイルス感染を予防しながら社会経済活動を行えるようガイドラインを設けて、その実践が呼びかけられてきました。中国や欧州で行われたような完全な都市のロックダウンを行えば、かなり効果的に感染拡大を押さえ込むことは出来ませんが、根気強く感染予防対策を遵守すれば、ある程度の社会活動、経済活動を続けていくことは可能だとの目論見がありました。ところが、感染流行の第三波に至っては、これまで取ってきた感染防止対策による抑制効果が十分とは断言できなくなっています。

このような状況において地域医療を担う病院の役割は患者様が安心して受診出来る医療体制を提供することであり、新型コロナウイルス感染を恐れるあまり、必要な受診、治療が遅れることのないように努めなければなりません。

感染症の流行であるコロナ禍は大きな意味での大規模災害といえます。県下の病院の多くが災害時に日常業務を維持できるようにBCP(事業継続計画: Business continuity planning)を策定しています。現在のBCPは地震や風水害などの災害を念頭に置いて策定されており感染防御について対応されている計画は少ないと思います。第一波、第二波の時期には、国や県の指導、調整のもと、医師会、感染病床を有する医療機関などが協力して感染対応が行われてきました。現在ではかかりつけ医や一般病院などすべての医療機関が新型コロナウイルス対策に協力できる体制が整っています。病院協会は国や県からの要請に協力してきましたが、感染が拡大した現状に至っては、更に病院間の連携が円滑に行われるよう支援し医療界が一丸となってコロナ禍に対応できるよう尽力していくことが必要です。入院病床などの医療資源を有する病院がコロナ禍に対して個々に対応するだけで無く、横の連携をとって対応を強化させていくことがとても重要だと考えています。

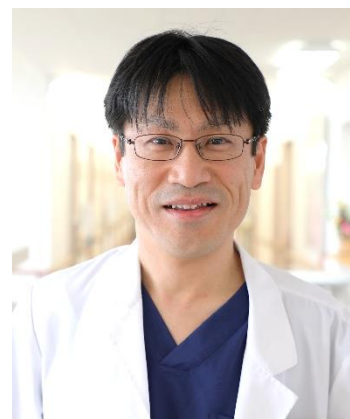
人類の英知を信じ、本年が新型コロナウイルスパンデミック克服に向けた躍進の年となるよう祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

三重県病院協会理事
上野総合市民病院院長
田中 光司



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2020 年の伊賀医療圏と上野総合市民病院の現状を振り返り、2021 年の抱負を述べたいと思います。

伊賀医療圏は、伊賀市；約 9 万人、名張市；約 7 万 8 千人の合計 16 万 8 千人からなる医療圏です。伊賀地域の二次救急医療体制は、2008 年 4 月から岡波総合病院・名張市立病院・上野総合市民病院の 3 病院による輪番制を実施しています。夜間・休日の時間外救急は当番病院がいったん受入れ、対応困難な場合は三次救急医療機関に転院のお願いをしています。割り当て日数に依存しますが、令和元年度は岡波総合病院：3030 人、名張市立病院：3369 人、上野総合市民病院：2762 人の時間外救急患者を受け入れています。一般診療では 3 病院が専門領域に応じて、機能分担をしています。

令和元年度の上野総合市民病院の診療実績概要です。入院患者数：71826 人、外来患者数：69260 人、時間外救急患者数：2762 人、消化器内視鏡件数：4947 件、手術数：855 件、がん登録患者数：349 件でした。このように、地域医療に貢献できる状態となりつつある当院を市民のみならずに知っていただきたいとの思いから、「上野総合市民病院の数字」をホームページで紹介し始めました。これまでの内容を少しご紹介します。

2020/6/1

71826 人：2019 年の 1 年間に当院へ入院された延べ患者数です。1 日に 197 人入院していることになります。国は公立、公的病院に対し、病床再編を促進させ、病床削減をするように迫っています。地域の実情に応じて、地域で話し合い地域で合意するようにと迫っています。当院はこれまで同様、救急医療を含む急性期機能の充実を図るとともに、伊賀地域 3 基幹病院間（岡波総合病院、名張市立病院、上野総合市民病院）での機能分化と病院間連携をすすめていきます。伊賀地域の医療を守るために、病床を維持し、病院として生き残らなければならないと思っています。

2020/8/1

451 人：1 年間の消化器外科手術患者数です。消化器がん（胃がん、大腸がん、肝・胆・膵がんなど）、腹部救急疾患（消化管穿孔や腹腔内出血など）、大腸肛門疾患（痔核・痔瘻や直腸脱など）など、幅広い疾患に対応し、専門性の高い外科治療を行っています。外科医は 6 名で消化器外科専門医・指導医は 4 名です。5 名の消化器内科医と連携し、患者にあわせて、内科的治療（内視鏡的）、外科的治療を行っています。消化器疾患の診断・治療は当

院の強みのひとつと思います。

現在もホームページで毎月情報発信しています。今後、伊賀市の情報紙「広報いが」にも掲載してもらう予定です。来年度は各部門から情報発信し、当院の医療レベルを知っていただくと思っています。

2020 年の上野総合市民病院は、新型コロナウイルス感染症対策に追われてばかりでしたが、そのなかで職員一人一人が自覚をもって行動するという意識が高まったような気がします。伊賀地域で治療が完結できるよう医療レベルを向上させる努力をし続けなければならないと思っています。

三重県病院協会会員のみなさま、竹田 寛 理事長、理事のみなさま、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



三輪大社



年頭所感 2021

三重県病院協会理事
伊勢赤十字病院長
楠田 司



あけましておめでとうございます。気持ちも新たに2021年(令和3年)を迎えることとなりました。

昨年を振り返りますと、コロナ禍の散々な1年であったと総括するのが妥当かと考えます。ちょうど1年前の1月16日、中国武漢市に滞在し、日本に帰国した男性から新型コロナウイルスが検出されたと発表され、2月3日には横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の海上検疫を皮切りに、感染症が全国に広がっていきました。そして4月7日には緊急事態宣言に至っています。8月から9月に第2波を経験。さらに、経済回復という観点から始められたGo To Travel, Go To Eatを契機に、第1波や2波以上の感染広がりを見せた第3波を経験し、現在に至っていることはご存じの通りです。

では、この間の当院の対応を振り返ってみますと、2月10日に帰国者、接触者外来を立ち上げ、4月13日には発熱外来を開設しています。発熱外来は私を含め、トリアージができるすべての医師が参加しています。5月にはSARS-CoV-2陽性患者や陽性疑い患者を集約するため、もともと陰圧病床となっている病棟をコロナ専用病棟として作り替えました。院内のスタッフ全員に標準予防策を周知し、コロナ専用病棟や救急外来のスタッフには特に徹底しました。さらに、COVID-19に関わるスタッフの心のケアとして、産業医、臨床心理士、精神看護専門看護師を中心にTeam Cocoroを結成し、定期的に病棟ラウンドを行い、ストレス過多なスタッフには必要に応じ勤務交代を行い負担の軽減に努めました。また、当病棟の運用としては、こういった疾患であろうとも、発熱、肺炎所見を伴う入院患者は昼夜を問わず当該病棟に集約管理されることになり、検査上も臨床上も陰性を確認するまで転棟できないという厳重な管理体制をとっています。

以上の体制で院内感染防止に努めてきましたが、このような体制はある程度安心を確保できる一方、感染疑い患者数がか所に集約するわけですから、勤務するスタッフには多大な精神的負担を強いることになります。Full PPEを一患者ごとに替え、自身への感染の心配や家族に移してしまう不安、十分な医療・看護を提供できないという不満を抱えながら、緊張度の高い業務に当たることになります。少しでも負担が軽減されればと、勤務交代によるスタッフの入れ替えを行いつつ病床コントロールを進めました。心を病んで退職を希望する職員が増加することが懸念されましたが、幸いそういったスタッフは見られておりません。

むしろ、重症者を引き受け、挿管、人工呼吸管理を行い、自身や家族への感染を顧みず患者本位で治療に専念する姿を見せてくれました。これらは、まさしく医療者の本来あるべき姿の具現であり、赤十字のモットーである、「私たちは苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間の命と健康、尊厳を守ります」という使命の実践でした。赤十字病院に勤める医療者の理念、矜持を目の当たりに見ることができ、誇らしく、また頼もしくもありました。

新型コロナ感染症対策は今年も喫緊の課題であることには間違いありません。しかし、我々には第一波、第二波を乗り越えた経験や知見があります。まもなくワクチンも手元に届くでしょう。昨年を病に翻弄され絆を失いかけた1年とするならば、今年は病を乗り越え克服し絆を取り戻す1年になるものと確信しています。



高田本山専修寺 唐門



新春のごあいさつ

三重県病院協会監事
吉田クリニック理事長
吉田 壽



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくご指導の程お願い致します。

また、新型コロナの感染拡大を防ぐために、強い使命感と感染のリスクを顧みずに身を挺して奮闘されている医療関係者に心から敬意と感謝をささげたいと思います。

昨年は、新型コロナ感染症による世界的なパンデミックが突発し、その対応に明け暮れた一年となりました。昨年12月12日時点での世界感染者数は7,111万人、死者160万人、日本では感染者数178,187人、死者2,582人、また三重県では感染者数1,041人、死者12人となっています。日本は今、第3波が襲来中で新規感染者数は、12日3,041人と3,000人を超え、過去最多を更新中です。今春1月には4,000名超が予想されています。

また医療機関や介護施設でクラスターが多発しており、11月に入って札幌田中病院、旭川厚生病院、旭川吉田病院等で150人を超える大規模クラスターが発生し、この見えない感染連鎖により、病院等の収容施設では増々緊張感が高まっております。

昨年12月上～中旬に政府が呼びかけた対策を伴わない掛け声だけの自粛に頼る「勝負の3週間」も空振りに終わりましたが、菅首相は経済活動と感染拡大防止の両立を図るために自身の主導した「Go To トラベル」事業を中止とせず、継続する考えを繰り返し述べていました。そのため、日本医師会だけでなく国民の70%が、新型コロナ・ステージ4に対する日本の医療に大きな不安を感じていて、12日に発表された世論調査では内閣支持率が40%へと急落しました。この支持率の急降下に驚いた首相は急遽ブレーキを踏みGo To事業の全国一斉停止(12/28～1/11)に踏み切りました。なお、停止継続中の札幌、大阪に加え12月16日から名古屋、東京を全国に先行して停止することを決定しましたが、既に機会を逸した感があります。

また、新型コロナは、医療機関の経営も直撃しました。患者の受診控えは想定を越え、また内視鏡検査、手術等が延期や中止となり、コロナ患者の受け入れ体制の確保のため生じた通常外来や入院体制の縮小化により或いはコロナ患者を受け入れない病院でも職員や患者のクラスターが発生すれば通常診療の停止などに追い込まれ、厳しい経済的打撃を受けています。

日本医師会、全国病院協会による「新型コロナウイルス感染拡大による病院経営の調査」によれば、令和2年4月前年同月比-9.1%、5月-8.4%、6月-12.1%、7月-1.4%、8月+0.5%、9月-2.0%と多くの月でマイナスに推移していますが、東京都(-19.5%：令和2年5月)、神奈川県(-17.5)、埼玉県(-16.0)、千葉県(-16.6)と首都圏のマイナ

ス幅が大きい。三重県は、全国平均に対して6月－0.5%、7月－1.1%とマイナスを記録したが、4月+2.2%、5月+1.9%、8月では+1.8%とマイナス幅は小さい。

令和2年4月から9月までの上半期の医療費を集計したところ（私の試算）令和元年に比し、社保（支払基金）－4,597億9千5百万円（－7.3%）、国保連合会－5,432億1千4百万円（－5.2%）で総計1兆30億1千1百万円（－6%）となりました。従って全国の医療収入が年間約2兆円減少することになりそうです。このような減収の状態で推移するのではないかと予想されるので、この減収の状態が「ニューノーマル」となる可能性が有り、長期化すれば、慢性的な赤字体質から抜け出すことが困難となります。

また、医療法人病院や個人病院等の中小病院での減収率が、大学病院や国立病院よりも悪化傾向にあり、患者に「感染対策のしっかりしていそうな大病院を選択する」思考が見られる。

このような経営下にあるので、病院がコロナの治療や検査等に献身的な貢献をしている医師や看護師等のパラメディカルにも報奨金を出す余裕がないため、昨年10月に支払われた新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金を再度増額して国或いは県が直接的に支援すべきと思います。

イギリスでは、昨年12月8日新型コロナワクチン接種が開始された。ファイザーと独ビオンテックの開発したワクチンで、治験段階で95%の予防効果が確認されています。このワクチンは、1回目接種後3週後に2回目の接種を必要とし、その後7日目に完全な免疫が得られるという。

アメリカでも、FDA（米食品医薬品局）が12月10日に諮問委員会を開き、賛成多数でファイザーのワクチン使用を支持し、12日に緊急使用許可が出されたので、14日より接種が始まりました。なお、モデルナの開発したワクチンも申請済みで、近くFDAは緊急使用を認める予定となっている。アストラゼネカの開発中のワクチンも2回接種で有効率90%という第三相試験の結果を公表していますが、申請は今後になります。

日本は、ファイザーのワクチン6,000万人（1億2,000万回）分の供与を受けることで合意していますが、まだ日本政府への承認申請は行われていないので、日本での接種は早くて3月末頃と新聞は報道しています。

イギリスメディアは、ファイザーの開発したコロナワクチンで、接種した数千人の医療関係者の内2人に激しい全身のアナフラキシー反応が見られたと報じています。もっとも、2人は過去にも強いアレルギー反応を示したことがあるとされている。今後の副反応の多寡が注目されます。

他の問題点は、ファイザーのワクチンは輸送時にセ氏マイナス70℃の超低温に保ち、解凍後5日以内に接種する必要があります。冷凍冷蔵庫（－80℃）が必要となるので接種場所は制限され、診療所での個別接種は不可能となり、公的な場所（保健センターや公立医療機関又は私立の病院等）での集団的接種になるのではないかと考えられます。但し、アメリカでは接種場所を身近で増やすためにウォルマート（スーパーマーケット）でも接種可能とするようです。また、接種を実施する場合優先順位を決めることが重要で、医師を始めとする医療・介護の従事者、重症化しやすい80歳以上の高齢者、基礎疾患を持つ人と順番に接種

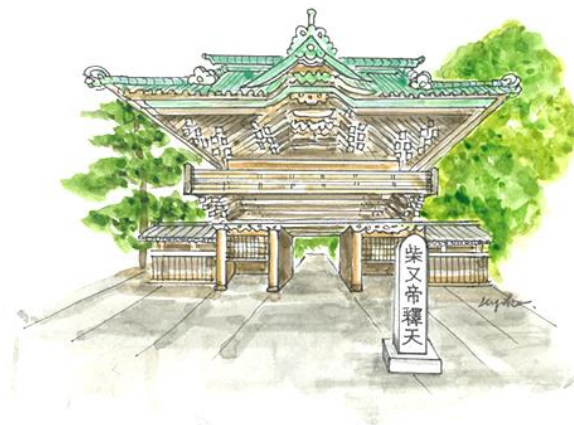
することになると思われます。

なお、接種料と接種による副反応への補償も国の負担でという改正予防接種法が、昨年 12 月 2 日に成立しましたが、事業主体となる市町村では早急に接種体制を構築し、接種事業費を補正予算化する準備が必要です。

厚労省によると、コロナワクチン接種は、住民票がある市町村から①接種券が配布され、②厚労省が開発する「V-SYS」で予約が可能かどうか確認した後、③市町村や医療機関に予約を入れて、④接種券を持って接種施設に受けに行くという段取りで行われる予定です。ところで、6,000 万人にコロナワクチンを接種する場合、×2 回で 1 億 2,000 万回に達する膨大な接種回数となり、ワクチンを無駄なく接種するにはシステムの構築と医師会や病院協会の強力な支援が不可欠になります。

その他、今年は多分順延された 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催は強行されると思います。その際、外国からの観戦或いは観光客が多数入国します。また、三重県においても外国チームのホームタウンとなる市町に於いては、外国人選手や観客との交流により人の往来が一層激しくなると考えられます。また三重県の主催する三重とこわか国体、三重とこわか大会も今秋開催されます。この際にも医師会や病院協会の協力・支援が必要となり、感染症対策の助言（know-how）が求められると思います。

いずれにしましても、イギリス医療調査会社エアフィニティによれば、集団免疫の獲得により日常生活に復帰する時期を分析したところ、日本ではワクチンの接種が普及する時期が今年の 10 月頃となり、従ってコロナによる感染症の収束は 2022 年春になると予想しています。今年一年も多難な年となるとの覚悟が必要なようです。



柴又帝釈天



伊勢はふるさと 空中散歩

松阪市民病院名誉院長 小倉 嘉文



松阪城址と御城番屋敷（2020年10月31日）



御在所頂上から菰野・四日市市街を望む（2020年11月4日）



志摩和具浦に架かる志摩大橋(志摩パールブリッジ) (2020年12月9日)



津 阿漕浦海岸からの初日の出 (2021年 元旦)



四季折々 ―盛夏から晩秋を彩る草花たち―

三重県病院協会理事長 竹田 寛



8 月 月下美人



9 月 夏のゆり



10 月 柳葉ルイラ草



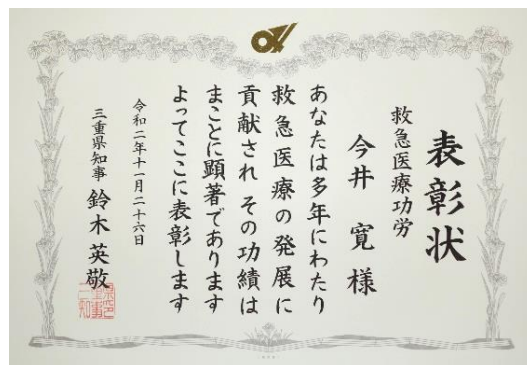
11 月 くっつき虫

受賞おめでとうございます

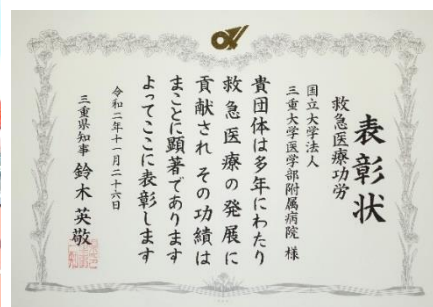
❀ 令和2年度救急医療功労者知事表彰

(個人) 国立大学法人 三重大学医学部附属病院
救命救急・総合集中治療センター教授

今井 寛 先生



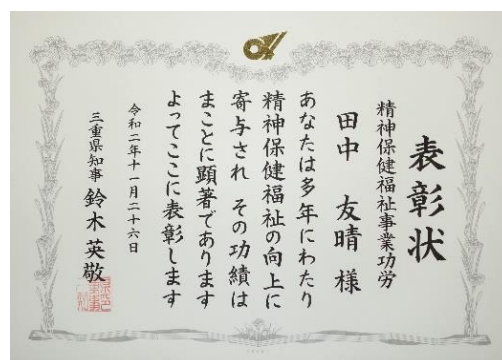
(団体) 国立大学法人 三重大学医学部附属病院救命救急センター様



❀ 令和2年度三重県福祉関係功労表彰

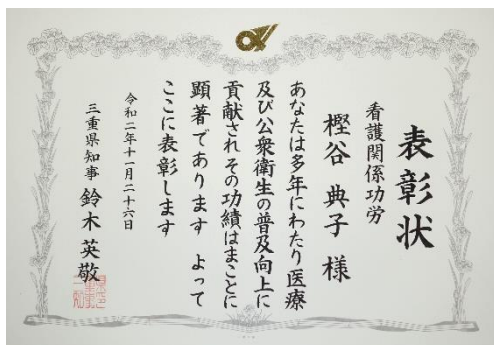
「精神保健福祉事業功労」

松阪厚生病院 事務局長兼医療福祉課長 田中 友晴 様



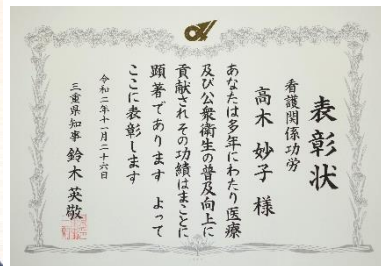
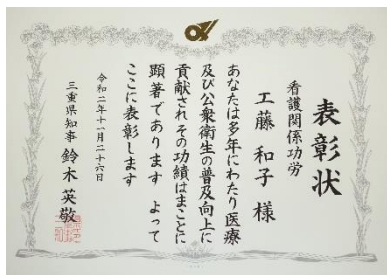
❀ 令和2年度看護関係功労者知事表彰

独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター看護師 樫谷 典子 様

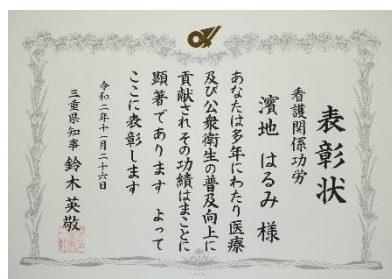


松阪厚生病院看護師 工藤 和子 様

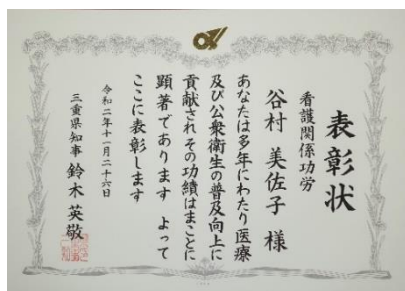
同 高木 妙子 様



同 濱地 はるみ 様



社会医療法人 居仁会 総合心療センターひなが看護師 谷村 美佐子 様



地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指して

三重県立志摩病院 事務部長 青木正晴

三重県立志摩病院は、志摩地域唯一の中核的な総合病院として、地域の病院・診療所や高次機能病院との密接な連携のもと、救急・総合診療を中心に包括的医療サービスの提供など地域医療を展開しています。精神病床を有する数少ない総合病院として精神科身体合併症にも対応しています。

現在の病床数は 336 床、診療科は 14 科、職員数は 329 人で、二次救急病院のほか、へき地医療拠点病院、基幹型臨床研修指定病院、災害拠点病院、地域医療支援病院に指定されています。2012（平成 24）年 4 月からは、指定管理者として公益社団法人地域医療振興協会が運営を行っています。

当院は、伊勢志摩国立公園区域内の志摩市阿児町鵜方の北西の小高い丘の上に位置しており、病院屋上からは英虞湾や太平洋が見渡せ、周りは暖地性の樹林に囲まれて野鳥のさえずりも聞こえる静かな環境の中にあります。

また、志摩市大王町が「絵かきの町」といわれることもあり、院内には寄贈された絵画や彫刻などの美術作品が多数展示され、来院者の心を和ませています。

当院の歴史は古く、1926（大正 15）年 10 月 20 日に「株式会社高砂病院」として病床数 30 床、職員数 15 人で開院しました。当時の志摩地域には総合的な病院がなく、地元の開業医で処置できない病人やけが人は、峠道を越えて遠くの宇治山田（現伊勢市）の病院まで運ばなくてはなりませんでした。この頃は当時大流行したスペイン風邪がようやく収まった後でもあり、病院開設を求める地域住民の声が高まっていたのではないのでしょうか。

このような地域住民の切実な願いを受け、病院開設に向けて地元有志が何度も会合を重ね、



発起人となって出資を募り、株式会社を設立しました。それまでわが国には株式会社による病院設立の例はなく、設立認可申請は何度かの不認可を経てようやく認可され、開院の運びとなりました。その後、病棟の新增築など拡充を重ね、終戦時 1945（昭和 20）年 9 月の「日本医療団志摩地方病院」への業務承継を経て、1948（昭和 23）年 11 月 1 日から三重県立志摩病院となり、現在に至っています。

今は昨年からの新型コロナウイルス感染拡大が続く大変厳しい状況にありますが、このような中であって、95 年前に地元有志の並々ならぬ熱意と努力によって設立され発展してきた伝統あるこの病院に誇りを持って、これからも地域の皆様から信頼され親しまれる病院となることを目指し、スタッフと力を合わせて日々の業務に努めていきたいと考えています。

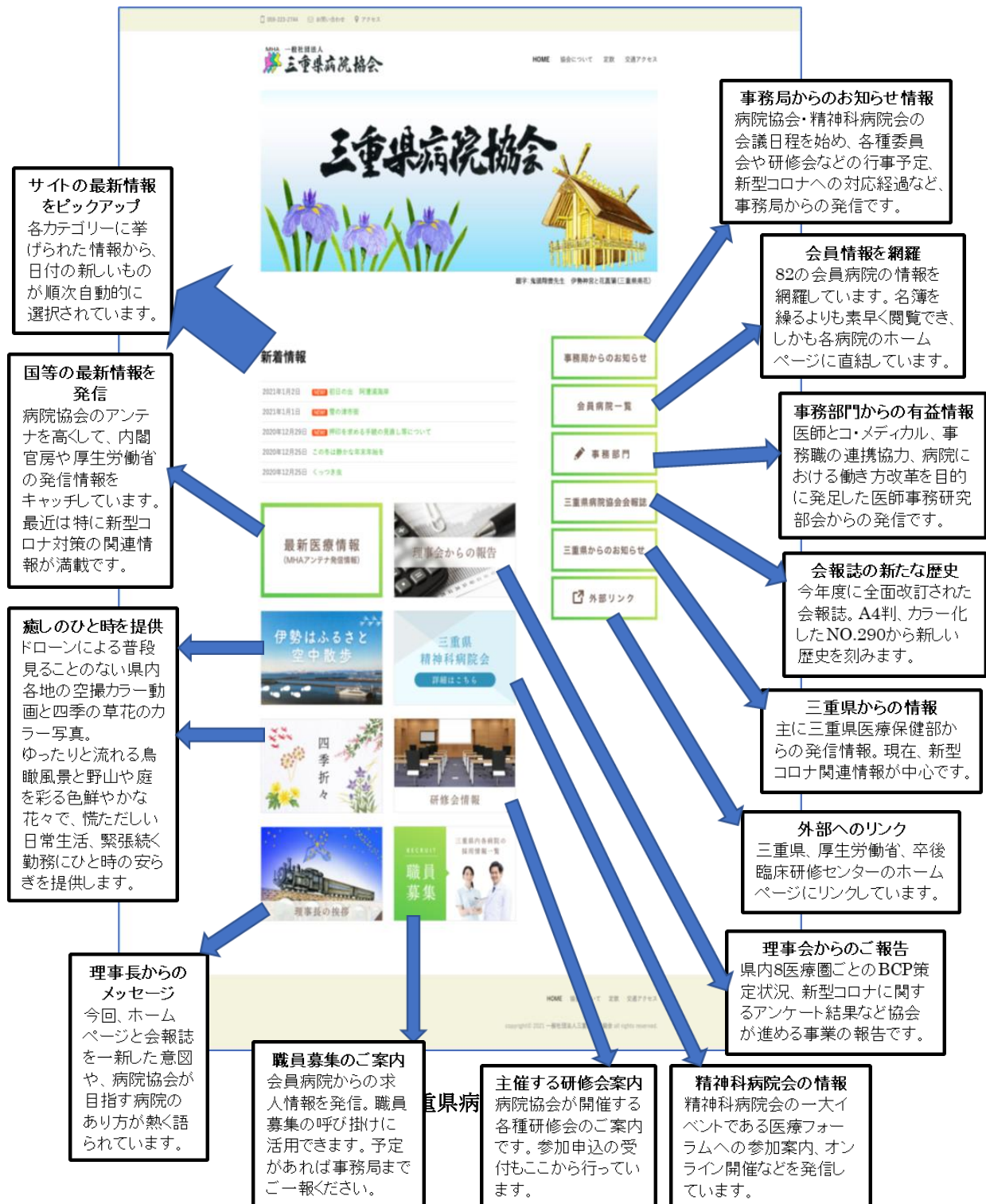


国・県と三重県病院協会における新型コロナウイルス感染症対策の経過 (令和2年12月1日～31日)

	国・県等	病院協会
12月1日	国:国内感染者15万人を超える 県:県内866～880、896例目の患者確認	
2日	県:県内881～895、897～905、914例目の患者確認	○(株)まるゑいから伊勢茶製品の配送連絡
3日	県:PCR検査実施状況等のVol.190配信 県:WEB調査結果の活用マニュアルの改正について通知 国:世界の死者150万人を超える 県:県内906～913、915～927、930例目の患者確認	○(株)まるゑいから伊勢茶製品を配送
4日	県:「第6回三重県新型コロナウイルス感染症対策協議会」(WEB)開催 県:地域の医療機関向けマニュアルの送付について(HER-SYS関係)通知 国:「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第4版」の周知について通知 県:県内928～929、931～940、946例目の患者確認	○県協議会に竹田理事長、新保理事出席 
5～6日	県:県内941～945、947～957例目の患者確認	
7日	県:県内958～967、982例目の患者確認	○国・県提供のマスク、ガウン、防護対策キット等の不足調査集約(18/36から回答)、県報告
8日	県:県内968～981、983～986、988、991～995、1008例目の患者確認	○国・県提供のマスク、ガウン、防護対策キット等の希望1病院追加(19/36)、県報告
9日	県:県内987、989～990、996～1007、1009～1011、1015例目の患者確認	○国・県提供のマスク、ガウン、防護対策キット等の配送、来所受渡し開始
10日	県:新型コロナウイルス感染症患者受入れ医療機関の支援に関する総合相談ダイヤルの設置について通知 県:県内1012～1014、1016～1029例目の患者確認	
11日	県:県内1030～1042、1045～1047例目の患者確認	○県医師会からフェイスシールド106枚の提供申出
12日	県:県内1043～1044、1048～1055、1058例目の患者確認	
13日	県:県内1056～1057、1059～1073、1081、1083～1084例目の患者確認	
14日	国:GoToトラベルキャンペーンの一時停止を発表 県:県内1074～1080、1082、1085～1086例目の患者確認	
15日	県:県内1087～1103例目の患者確認	○県医師会提供のフェイスシールド着荷、保管
16日	県:県内1104～1116例目の患者確認	○国・県提供のマスク、ガウン、防護対策キット等の配送、来所受渡し完了
17日	県:PCR検査実施状況等のVol.200配信 県:県内1117～1123例目の患者確認	
18日	県:新型コロナウイルス感染症に関する自費検査に係る調査への協力について通知、新型コロナウイルス感染症に係る自宅療養の体制整備について通知 県:県内1124～1131、1133～1138例目の患者確認	
19日	県:県内1132、1139～1144例目の患者確認	
20日	県:県内1145～1151、1161例目の患者確認 国:国内感染者20万人を超える	
21日	県:県内1152～1160、1162～1165、1169例目の患者確認	
22日	県:新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引きについて通知 県:県内1166～1168、1170～1176例目の患者確認 国:国内死者3,000人を超える	
23日	県:県内1177～1187例目の患者確認 県:新型コロナウイルス感染症陽性者に対するアンケート調査について通知	
24日	県:県内1188～1198、1205例目の患者確認 県:三重県感染症対策条例の公布および施行について通知、三重県新型コロナウイルス感染症医療機関等支援事業(医療従事者の宿泊施設確保事業)の実施について通知	
25～31日	県:県内1199～1204、1206～1297例目の患者確認	



三重県病院協会のホームページは今年度リニューアルされ、見やすい画面で豊富な情報を発信するサイトへと大きく様変わりしています。その一端をご紹介します、皆様のご活用をお待ちいたしております。





三重県病院協会だより

9月から12月における会議や研修会一覧

月日	会議など	事 項	場所	出席
9月15日（火）	第49回定例理事会	1. 三重県の医療機関における新型コロナウイルス感染症の診療や経営に及ぼす影響：アンケート調査結果報告書 3. 新しいホームページ 4. 太平洋・島サミット会議 5. ドクターヘリ検証会6月、7月	web会議	理事16名 監事2名
11月4日（水）	病院協会HP更新打合せ会議	1. 初対面者の紹介 2. 資料確認と説明 ・業務内容と流れ 3. 業務区分と分担 ・ラールデザイン ・エントーレス ・事務局 ・医事研究委員会 ・医師事務研究部会 4. 今後の予定 5. その他	病院協会	6名
11月17日（火）	第50回定例理事会	1. 理事長報告 1) 西村経済再生担当大臣と三重の医療団体との意見交換 2) ビジネス目的渡航者向けPCR検査等実施医療機関の登録について 3) 各医療圏における病院BCP策定状況 4) 第4回新型コロナウイルス感染症対策協議会 5) 第5回新型コロナウイルス感染症対策協議会 6) 第1回がん対策推進協議会 7) 第1回地域医療対策協議会医師派遣検討部会 8) その他 (1) 三重県医師会との協議会、懇親会 (2) ホームページの新企画の紹介 2. 各種委員会等出席報告 3. 研修会開催日程について 4. 会報誌発行予定について 5. 情報交換、その他	web会議	理事16名 監事2名
11月25日（水）	第1回医療事務・人権研修会	〔人権研修〕 講演 「コロナ禍の中で育むコミュニケーション」 講師 日本産業カウンセラー協会 産業カウンセラー 中川真理子様 〔保険事務研修〕 講演 「医療事務の基礎を固める+2年度改定の要点」 講師 株式会社ソラスト三重支社 アドバイザー 中澤知子様	web研修会	126名



理事会 web 開催



web 講習会の様子



三重県精神科病院会だより

年月日	事 項	出席	摘 要
令和2年 10月28日～11月27日	第11回三重精神科医療フォーラム (Web開催) テーマ『未来につなぐ精神科医療』 ―より深い連携をめざして― 大会長：松阪中央総合病院 精神神経科部長 山 寄一正 担当病院：松阪中央総合病院 県立こころの医療センター 松阪厚生病院 伊勢赤十字病院	433名	演題発表 48演題 (オンデマンド方式) ◎ランチョンセミナーA (ライブ配信) 「不眠診療のup to date ～レンボレキサントへの期待～」 座長：松阪中央総合病院 精神神経科部長 山 寄一正先生 演者：大阪回生病院 睡眠医療セミナー 部長 谷口充孝先生 共催：ユーザイ株式会社 ◎ランチョンセミナーB (ライブ配信) 「職場のうつ病問題を考える」 座長：三重県立こころの医療センター 院長 森川将行先生 演者：産業医科大学精神医学教室 准教授 新開隆弘先生 共催：日本イーライリリー株式会社
			
令和2年12月16日 (水) 午後5時	12月例会 (Web開催)	19名	1. 第11回三重精神科医療フォーラムについて(報告) 2. 第12回三重精神科医療フォーラムについて(協議) 3. 2021年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術 総会への後援について(齋藤洋一先生より) 4. 審査会報告 5. 各種委員会報告 6. 情報交換、その他





三重県病院協会事務部だより

医師事務研究部会

活動経過報告	事 項	場所	出席
第9回管理者・実務者定例会	1. 医師事務作業補助者On-Line座談会について	Web定例会	11名
令和2年9月28日（月）午後2時	2. 医師による医学講座の動画配信について		
	3. その他（意見交換など）		
第10回管理者・実務者定例会	1. 医師事務作業補助者On-Line座談会について	Web定例会	12名
令和2年10月27日（火）午後2時	2. 医師による医学講座の動画配信について		
	3. その他（意見交換など）		
管理者・実務者定例会（臨時開催）	1. 病院協会ホームページについて	Web定例会	11名
令和2年11月25日（水）午後2時	2. 医師による医学講座の動画配信について		
	3. その他（意見交換など）		
管理者・実務者定例会（臨時開催）	1. 医師事務作業補助者On-Line座談会について	Web定例会	12名
令和2年12月16日（水）午後2時	2. ミニ研修会について		
	3. その他（意見交換など）		



今後の研修会

予告

今後開催を予定している病院協会の研修会、セミナーのご案内です。既にホームページで募集開始されているものもありますので、ご確認ください。

医療事務職員等研修会

種類・名称	開催日程	開催方法	内容・テーマ等	講師	受講料
第3回 医療事務・ 人権研修	令和3年 3月11日(木) 13:20~16:35 (参加募集) 2/18~3/4	ZOOMによる ライブ配 信	1. 三重県の人権施策について 13:30~13:40 2. 人権研修 13:40~14:50 テーマ:(未定) 3. 医療事務職員研修 15:00~16:30	1. 三重県医療保健部 人権・危機管理監 中井正幸 2. 日本産業カウンセラー協 会 三重事務所 3. 社会保険診療報酬支払基	会員病院 1病院2,000円 会員外病院 1病院3,000円

ジェネラリスト養成研修会

種類・名称	開催日程	開催方法	内容・テーマ等	講師	受講料
第2回 病院経営に 活用できる 財務分析と 管理会計の 理解	令和3年 3月23日(火) 16:30~20:00 (参加募集) ~令和3年1/15 (追加もあり)		1. 決算書の読み方・財務分析の基礎 16:30~17:30 2. 管理会計の病院における活用方法 17:45~18:45 3. 診療科別原価計算の理解 19:00~20:00 『診療報酬請求に係る留意点』	有限責任監査法人 トーマツ スタッフ 公認会計士 武内 佳	
第3回 DPCデータ 活用による 経営戦略	令和3年 5月26日(火) 16:30~20:00 (参加募集) ~令和3年1/15 (追加もあり)	1)オンライン ライブ配信	1. 公開DPCデータによるマーケティング調査 16:30~17:30 2. DPCデータを用いた病院経営戦略の立案 17:45~18:45 3. 戦略実行と目的管理 19:00~20:00	有限責任監査法人 トーマツ シニアスタッフ 診療放射線技師 経営管理修士 武藤 浩史	会員病院1名 全コース 15,000円 1コース 3,000円
第4回 労務管理、 人材マネジ メントの基礎	令和3年 7月27日(火) 16:30~20:00 (参加募集) ~令和3年1/15 (追加もあり)	2)会場参加 (株)ニチイ 学館津支店 会議室 (株)ソラスト 三重支社会 議室	1. 病院に求められる人材マネジメント 16:30~17:30 2. 労務管理の基礎 17:45~18:45 3. 働き方見直しの進め方 19:00~20:00	有限責任監査法人 トーマツ マネージャー 吉田 聖	会員外病院1名 全コース 25,000円 1コース 5,000円
第5回 インフラシ ステム・デー タガバナンス の基礎	令和3年 9月16日(木) 16:30~20:00 (参加募集) ~令和3年1/15 (追加もあり)		1. 病院情報システムの現状とそれを取り巻く状況 16:30~17:30 2. 医療データの利活用に関する動向 17:45~18:45 3. 医療機関におけるサイバーセキュリティ対策の 重要性と具体的方策	有限責任監査法人 トーマツ マネージャー 上級医療情報技師 医療情報システム 監査人補 石間 正俊	
第6回 病院施設管 理の基礎	令和3年 11月24日(水) 16:30~20:00 (参加募集) ~令和3年1/15 (追加もあり)		1. 病院施設管理の現状 16:30~17:30 2. 病院施設管理計画の策定 17:45~18:45 3. 病院建替えの留意点 19:00~20:00	デトロイト トーマツ PRS株式会社 一級建築士 小田 明彦	

病院経営管理者セミナー

種類・名称	開催日程	開催方法	内容・テーマ等	講師	受講料
第1~6回 病院経営管 理者セミ ナー	令和3年2月~ (日程未定) (参加募集) (時期未定)	1)対面型研 修 2)オンライン 研修	1. 共同購入について 2. DPCデータを用いた経営分析と実践例 3. 医師の働き方改革と病院経営を結びつけたテーマ 4. ダイバーシティマネジメント 5. 新型コロナウイルス感染症における病院経営戦略 6. 病院経営戦略セミナー(急性期病院に求められる 戦略的経営とは) など	千葉大学医学部附属病院 井上貴裕 先生 各協力企業(日本ホスピタル アライアンス、日本医療共同 購買機構、(株)girasol、(株) ニチイ学館、(株)ソラスト、有 限責任監査法人トーマツ)又 は外部講師	会員病院 対面1人1回、オ ンライン1病院1 回2,000円 会員外病院 対面1人1回、オ ンライン1病院1 回5,000円



連載：「新型コロナウイルス感染症」感染拡大下における事務部門の役割 ～名張市立病院事務局の取り組み事例～

名張市立病院 経営改革担当監 中西 優輝

令和元年12月頃から中国湖北省武漢市において新型コロナウイルスに関連した肺炎の発生が複数報告されました。このウイルスの拡大は瞬く間に全世界に拡大し、令和2年3月11日にはWHOのテドロス事務局長から「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がパンデミック（世界的な大流行）に至っている」との認識を示され、各国に対し一層の対策強化を求められました。



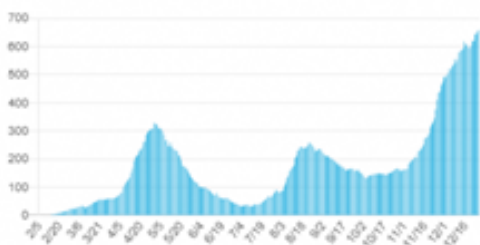
日本においては、令和2年1月頃より新型コロナウイルス感染が拡大し、令和2年5月1日には政府から（1）一人ひとりの基本的感染対策、（2）日常生活を営む上での基本的生活様式、（3）日常生活の各場面別の生活様式、（4）働き方の新しいスタイルといった第2波、第3波に備えた「新しい生活様式」が提唱されました。



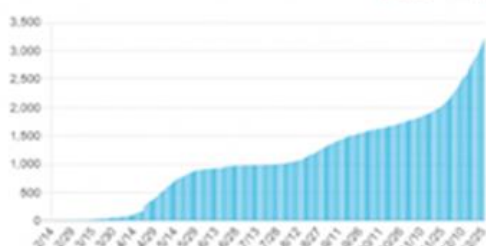
陽性者数 3,694人
(累計 216,701人)



重症者数 659人
(前日比 +5人)



死亡者数(累計) 3,212人
(前日比 +58人)



このような中、新型コロナウイルス感染症陽性患者は増加をたどり、令和2年12月27日0:00時点における陽性者数は21万7312人（うち重症者数659人、死亡者数3,213人）となっている状況です。

各種報道機関から流れてくる情報は日進月歩であり、それぞれの専門家たちの発言は異なり、国民は何を信じればよいのか、どのように感染防止対策をとれば良いのかわからなくなってきました。

このような状況下で、各医療機関は使命感からPCR検査並びに陽性者の治療を実施していますが、そこに従事する者たちの疲弊感は大きく離職に至るケースもあると聞きます。

そこで、事務部門として新型コロナウイルス感染症拡大防止に役立てる術はないかと考え、地域の感染拡大防止を目的に地元のケーブルテレビと共同で配信することを立案。配信形態は、TV、FM、インターネットとあらゆる場面においても情報提供できる仕組みにしました。番組名は職員から公募し、市民の皆さまに親しんでいただけるよう、名張弁を一部取り入れた「メディ★ナバ ～あれこわい ちょっと知っとこ 健康チャンネル～」に決定しました。（メディ★ナバとは、メディカル★ナバリの略、あれこわい…あ～、ビックリした という意味）



第1回目の放送が令和2年11月1日であったため、テーマを「新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザについて」とタイムリーでかつ重要な内容にしました。

当院の感染症専門医並びに感染症認定看護師が、新型コロナウイルス感染症に関する地域の発生状況や特徴、リスク因子、予防策などについて、地元医療機関に従事する専門家としてわかりやすく解説。「自らの感染対策を実施することで、大切な家族、知人、職場の同僚などの感染を防止することに繋がる」という内容を配信しました。



リスク因子【新型コロナウイルス感染症】

重症化のリスク因子	要注意な基礎疾患など
65歳以上の高齢者	生物学的製剤の使用
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	臓器移植後やその他の免疫不全
慢性腎臓病	HIV感染症 (特に CD4 < 200/L)
糖尿病	喫煙歴
高血圧	妊婦
心血管疾患	悪性腫瘍
肥満 (BMI30以上)	



放送後、地元ケーブルテレビには市民からのご意見が多く寄せられ「タイムリーな話題で大変良かった。」、「相手の命を守る⇒自分の命を守ることに繋がる」、「こういった情報はどれだけ配信してもらっても良い」など様々なご意見を頂いています。

【QRコード】





報告

三重県病院協会 会議予定表 (令和3年1月～6月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
日曜	項 目	項 目	項 目	項 目	項 目	項 目	
1 金	未定の各種委員会 (過年度実績) 学校心臓検診委員会、外国人患者受入モデル検討会議、ドクターヘリ運航調整委員会事後検証会、新型コロナウイルス対策協議会	月	未定の各種委員会 (過年度実績) 地域医療対策協議会、アレルギー疾患医療連絡協議会、救急医療情報センター定例理事会、地域医療介護総合確保懇話会	木	未定の各種委員会 (過年度実績) 後期高齢者医療広域連合協議会、後期高齢者医療広域連合定例会、医療審議会救急医療部会、医療審議会災害医療対策部会、ドクターヘリ運航調整委員会事後検証会	土	未定の各種委員会 (過年度実績) 救急医療情報センター理事会、とこわか国体実行委員会、角膜・腎臓バンク協会理事会、ドクターヘリ委員会事後検証会
2 土		火	火	金	日	水	
3 日		水	水	土	月	木	
4 月		木	木	日	火	金	
5 火		金	金	月	水	土	
6 水		土	土	火	木	日	
7 木	三重県、県医師会、病院協会三者協議会(竹田理事長)	日	市民公開講座「胃がん・大腸がん」(後援)	水	金	月	
8 金		月	月	木	土	火	
9 土		火	火	金	日	水	
10 日		水	水	土	月	木	
11 月		木	第3回医療事務・人権研修会	日	火	金	
12 火		金	金	月	水	土	
13 水		土	公開講座「がんゲノム」(桑名:後援)	火	木	日	
14 木		日	日	水	金	月	
15 金	岡波総合病院地鎮祭(竹田理事長)、認知症疾患全国研修会三重大会(～16WEB:後援)	月	がん対策推進協議会(竹田理事長)	木	土	火	
16 土		火	火	金	日	水	
17 日		水	水	土	月	木	
18 月		木	木	日	火	金	
19 火	第51回理事会(WEB)、医師事務部会第1回オンライン座談会	金	未定の各種委員会 (過年度実績) 地域医療対策協議会医師派遣部会、アルコール健康障害対策部会、精神保健福祉審議会部会、後発医薬品適正使用協議会、要保護児童対策協議会、医療審議会災害医療対策部会、公衆衛生審議会健康危機管理部会	月	水	土	
20 水	第2回接遇・人権研修会(WEB)	土	土	火	木	日	
21 木	(精神)12回フォーラム第1回準備会議	日	日	水	金	月	
22 金	BCP研修会(東紀州、松阪:竹田理事長)、(精神)自殺対策推進部会(WEB:森川理事)	月	月	木	土	火	
23 土	電波の安全利用管理セミナーin名古屋(WEB)	火	火	金	日	水	
24 日		水	水	土	月	木	
25 月		木	木	日	火	金	
26 火	第1回ジェネラリスト養成研修会(WEB)	金	金	月	水	土	
27 水		土	土	火	木	日	
28 木		日	日	水	金	月	
29 金			月	木	土	火	
30 土			火	金	日	水	
31 日			水		月		
過年度実績等	広報委員会「会報NO.291」発行	県医師会との意見交換会	広報委員会「会報NO.292」発行	病院協会監査(精神)病院会監査(精神)理事会(精神)12回フォーラム第2回準備会	第10回定時総会(精神)事務長会	広報委員会「会報NO.293」発行	

令和2年度より、三重県は CDR体制整備モデル事業 を実施します。

チャイルド・デス・レビュー

三重県では、令和2年度より、厚生労働省チャイルド・デス・レビュー（CDR：予防のための子どもの死亡検証）体制整備モデル事業を始めました。今後、子どもにとってより安全で安心な世の中を目指すため、ご理解をお願いします。

子どもたちにとって
より安全で安心な
世の中を目指すために
予防というメガネを
試してみる

チャイルド・デス・レビュー

CDRとは

～予防のための子どもの死亡検証～

子どもが死亡したときに、その原因などについて、多くの専門機関（病院、保健所、児童相談所、警察等）が情報や意見をもち寄って話し合い、「次に同じような死亡が起きないための予防策」を検討して実施しようとする取り組みです。



（お問い合わせ先）

三重県子ども・福祉部子育て支援課

059-224-2248

三重県医薬品卸業協会



快適が好きです。

親しみやすさを感じさせるユニフォームは癒しを与えてくれる



明るい励ましの声が響いてくるような、温かな絆のシンボルとも言えるユニフォーム。機能的な先進素材と、軽快で動きやすいデザインが理想の協働環境をサポートします。



KURA-UNI CORPORATION

クラユニ 検索

ユニフォームで人とコミュニケーション

株式会社 クラユニ コーポレーション

(旧社名 株式会社 倉田白衣)

あらゆるニーズに、確かな「ユニフォーム力」でお応えします。

★おかげさまで、経済産業省「はばたく中小企業・小規模事業者300社」2019を受賞しました。

- 津 本 社 津市中央 12-1 TEL059-226-8911 FAX059-225-8911
- 四日市支店 四日市市諏訪町 12-1 TEL059-351-8911 FAX059-351-8910
- 伊 勢 支店 伊勢市宮町 1-9-20 TEL0596-24-8911 FAX0596-24-8583
- 名古屋支店 名古屋市東区飯田町 38 TEL052-931-8910 FAX052-931-8919
- ホームページ <http://www.kurauni.co.jp> ●FreeDial 0120-11-8911

NEWS! 各スポーツブランドのメディカルユニフォームに加え、高級ドクターコート等も取扱っています。

三 重 県 病 院 協 会 会 報

令和3年1月 NO.291

発 行 一般社団法人 三重県病院協会
〒514-0009 津市羽所町 514 番地 サンヒルズ内
Tel.059-223-2744 E-mail:sshenyi896@gmail.com

編 集 竹田 寛 諸岡芳人 高瀬幸次郎 加藤俊夫
(広報委員) 富本秀和 田中滋己 吉田 壽 小倉嘉文

印 刷 森田印刷株式会社 Tel.059-234-3219

これからの医業経営へ、「信頼」で結びたい。



医療・保健・介護・福祉施設が抱えるあらゆる課題を、
資格認定されたコンサルタントが解決します。

認定登録 医業経営コンサルタントは、医業経営に関わる方々が直面する課題に
的確・迅速に対応するため、所定の継続研修を履修し、常に質向上を図っています。



三重県支部

支所 〒511-0834 三重県桑名市大塚406-1 (税理士法人中央ビル内) TEL: 0594-23-2443 FAX: 0594-23-3303

※ 支所 〒102-0075 東京都千代田区三橋町4-15 株式会社プラザ9 TEL: 03-5219-6906 FAX: 03-5279-0181 <http://www.jahmc.or.jp>



患者様や従業員の為に ウイルス対策しませんか？



ウイルス(0.1 μ m) 99.8%除去
世界最強レベル*1の空気清浄機

*1 微細粒子の除去能力とフィルター性能低下率をもとにした能力

エアドッグ ※AirdogX5s

通常販売価格128,000円(税抜)



→ **今なら96,000円(税抜)**

Point1 ウイルス(0.1 μ m)99.8%除去、0.0146 μ mの微細粒子を除去

Point2 フィルター交換不要(清掃のみ)、ランニングコスト0円

Point3 医療・薬局・介護業界や地方自治体によっては
補助金申請が可能です。 ※詳細は各自治体へお問合せ下さい。
※補助金には審査があります

FAXでのご返信はこちら ⇒ 06-6398-5772

お問い合わせはこちら ⇒ 050-5491-2300

お問い合わせ時に「チラシを見た！」とお伝えください。問い合わせは、平日9:00~17:45

病院名(必須)	(ご担当者様名)		
病院住所			
TEL(必須)	()		
ご要望	☐ 資料送付	☐ 購入(台)	☐ その他()

ご記入いただいた個人情報の取扱者は、株式会社トゥーコネクトになります。ご記入いただいた個人情報は株式会社トゥーコネクトのプライバシーポリシー (<https://www.toconnect.co.jp/shop/pages/privacy.aspx>) 記載の目的の他、株式会社トゥーコネクト及びその業務委託先における商品の営業活動、お問い合わせに対する回答、商品の受発注のために利用いたします。

販売会社 : 株式会社トゥーコネクト 東京都港区新橋2-9-16-7F

営業受託会社 : 株式会社 パッパロー・IT・ソリューションズ 名古屋市中区大須3-30-20赤門通ビル 担当/藤田・浅田・加藤・竹森 No.10467